

宮城県漁業士会報 第5号

海 人

か い と

発行：平成14年2月
宮城県漁業士会
仙台市青葉区本町3丁目8-1
(宮城県産業経済部産業人材育成課内)
TEL 022-211-2764
FAX 022-211-2769



双観山から望む松島湾

平成十三年度一次産業交流会の開催について

会長 鈴木直光

農林漁業の担い手が一堂に会し、各分野の現状や取り組みを理解し、交流を深め、活動の輪を広げることを目的として昨年度より開催しているもので、今回が二回目となります。

今回は、平成十三年七月三十一日から八月一日の二日間、鳴瀬町と松島町を会場としてお互いの分野を理解するための視察研修と総合検討会が行われました。

交流会は①松くい虫被害跡地の造林及び五十年杉の森、②花き生産による地域振興の取り組み、③松島湾内の力キ養殖場などの現地視察の他に、地域振興活動事例として松島町漁業研究が行っている「力キ養殖体験学習」の取り組みの内容を大山茂宏青年漁業士から発表されました。

その後に行われた総合検討会は青年農業者会の公平伸行会長を座長として行われ、後継者や輸入産物に関する問題のほか、今後の一次産業交流会の方向性を中心に活発な意見が交わされました。

特に今後の方向性では、輸入産物の価格低迷などの問題には各分野・団体単独で取り組んだとしても成果が現れにくいことから、一次産業の担い手による連絡協議会をつくり、一次産業の担い手による連携協議会という意見や、お互いの交流によって高品質な生産物を安価に消費者に提供する体制づくりが必要ではないかと言った意見が出されました。

来年度以降は相互にメリットのある体制づくりや活動ができるよう農林の担い手団体と検討していきたいと思っております。



体験学習の取り組みを話す大山漁業士



農業士の経営する園芸施設視察

女性漁業士交流研修会開催される！

宮城県漁業士会事務局

平成十三年九月十一日に岩手県花巻市の台温泉「さなぶり荘」で岩手県主催による女性漁業士交流研修会が開催されました。

これは、平成十二年度に宮城県で五名の女性漁業士が誕生したことを受け、既に認定されている岩手県から交流会開催の申し入れがあつて開催されたものです。

東北地方で女性漁業士が認定されているのは現在のところ岩手県と宮城県だけなので、今回の開催は東北初となる画期的な試みとなりました。交流会ではお互いの経営内容として、これからの夢を話題とした自己紹介から始まり、女性同士といった気楽さも手伝つて和気藹々とした雰囲気

で会が進みました。会の中では様々な意見が出されましたが、①漁業士について地元が理解していない。活動するためには周囲の協力が必要。②女性漁業士ならではの活動を実現させるための努力が必要。各地域の声をとりまとめることが大切。③男性の後継者教育は不十分と感じる。我々も後継者育成に意識的に取り組む必要があるなどの意見が出されました。また、この交流会を継続して開催しようとの意見でまとも、来年度は宮城県を会場として視察研修等も取り入れながら開催することとなりました。



活発な意見が交わされました

◆参加した漁業士さんの感想◆

畠山悦子指導漁業士

女性漁業士として認定されてより、どんな活動をしていけばよいかわかりを感じながら、昨年九月十一日に岩手県の女性漁業士の方と交流できたことは、これからの活動に明るい手応えを感じました。いつも漁協婦人部活動の中でお会いしている仲間です。すぐのうち解け、活発な意見を出し合いながら楽しい雰囲気です。話し合い、環境問題、漁業経営の中の家族経営協定、地域おこしの中のイベントへの参加、これからの漁業を支える後継者の育成問題など、たくさん意見が出されました。

尾形静子指導漁業士

九月十一日の日程はノリ養殖業者としては厳しい日程でした。

また、台風接近ということもあり心配しながらの出席でしたが他県の女性漁業士のお話をお聞きできると楽しみにしていました。ディスカッションでは女性同士ということもあり、話が絶えることはありませんでした。色々な身近な意見が出て、これからの農漁業の進まなければならぬ道の大変さ！と大切さ！を感じました。「自然は宝だと思いました。漁業士という名称も知ってもらえない地元に戻り、これからの不安も感じました。」

研修会では、女同士なので気さくに話し合え、共感するときもしばしばあり、時間をもっとあればと心残りでした。岩手県の漁業士さんの地元の視察もしたかったと思います。研修会に出席して、心の中に何か一つでも私にできる事を見つけたければと、学びの心ができました。本当にありがとうございました。

山内典子指導漁業士

昨年九月十一日に開催された女性漁業士研修会は、漁業士と認定されたから初めての参加となります。漁業士として指導するより指導されるような立場であるような感じがしました。

研修会に参加した八名の女性漁業士の方達を拝見してびっくりしたのは想像してたよりかなり年齢層が高いということ。そして、内容的にもかなり経験を積んでいらつしやる方ばかりで大変勉強になりました。地域によって仕事の内容が違いうため、ゆつくり話すことができないので残念です。これからの要望としては若手の女性漁業士が誕生することを期待します。また、今年の交流会を楽しみにしています。

坂下清子指導漁業士

岩手県の女性漁業士の方達の高い意識の元での活動に感激いたしました。

一人一人自分の住んでいる地域に誇りを持ち、どつしりと腰を据えて家族や地元のものからのあり方を考えて行動に移しつつある姿を見て（特に家族経営協定や三陸町の蓮の花が咲く素晴らしい場所でお茶を出したいという前向きな取り組み等）そのうちという言葉で片づけたくないと感じ、まず、自分の中で少しずつ皆の意識が一つになり、さらに大きい輪になり、次の世代に地域の良さや人の交わりの大切さを伝えながら、この恵まれた豊かな自然とともに

に生きるため、地域の人達や子供達と身近なことからできることを少しずつ形にしていきたいと思いました。今年は子供達とはまなす会の人達で海辺にはまなすの花を少しずつあしらいたいと思っています。

★ 交流会に参加した漁業士さん ★

所属漁協	氏名	備考
広田町漁協	佐々木典子	陸前高田市
綾里漁協	向澤チトミ	三陸町
大槌町漁協	東谷幸子	大槌町
田老町漁協	吉永クミ子	田老町
大島漁協	畠山悦子	気仙沼市
河北町漁協	坂下清子	河北町
宮戸西部漁協	尾形静子	鳴瀬町
宮戸西部漁協	山内典子	鳴瀬町
浦戸東部漁協	鈴木直光	塩釜市

(敬称略)



岩手県漁業士会報でも紹介されました

支部だより

北部支部

岩手県漁業士会大船渡支部との交流会について

(宮城県漁業士会北部支部)

岩手県漁業士会大船渡支部との第三回目の交流会(平成十一年度から開催)が、平成十三年八月三十から三十一日にかけて、岩手県一関市厳美町「かんばの宿一関」を会場として開催されました。

今年度は、ホタテ養殖作業の遅れから例年より参加人数が少なく大船渡支部八名、北部支部五名、計十三名の漁業士が参加し、活発で熱心な意見交換を行い、さらに親交を深めて来ました。

なお、開催地については、昨年の交流会で提案された海の見えない温泉地で膝を交えてじっくり今後の漁業の在り方について語り合いたいとの強いラブコールを受けて場所を選定しました。

まず、交流会の初めての試みとして、各支部漁業士の顔写真入り名簿を配布した上で、顔と名前が一致するように自己紹介を行いました。

次に、従来であれば両支部の活動紹介を最初に行なっていました。今年度はワカメ養殖等深刻な問題とされている両支部の共通課題について整理し

ながら意見交換を行いました。共通課題として取り上げられたものは、今後のワカメ養殖の在り方として種苗の管理から流通販売、力関係については、輸入物の取扱い問題、SRSV対策、最近注目されているイワガキ養殖状況、販売先ルート等、マイクロバブルの導入による成果、また、後継者対策における先進事例等について、お互い真剣に腹を割って情報交換を行なったため、あつという間に時間が経過しました。



交流会開催状況

この交流会で両支部の参加者は生産に関する身近な情報を得るとともに、改めて漁業士としての自覚と責任の重要性を確認し合うとともに、知恵を出し合いながら二十一世紀の漁業の振興発展に頑張っていきたいと強く決意しました。

▼中部支部

中部支部学習会を開催して

青年漁業士 須田 稔樹
(表浜漁業協同組合)

八月三十一日に中部支部学習会が宮城県水産研究開発センターで開催され、中小企業診断士の村上恒雄先生を講師として「経営環境の変化とこれからの漁業経営について」と題して講演を頂きました。

ここ数年の景気の低迷に伴い、我々漁業者の経営も益々厳しくなってきました。そのために漁業経営に関して、「今までと同じ経営で良いのだろうか。何かを改善しなければならぬのではないか。」と考えている漁業者は少なくないと思います。



学習会開催状況

村上先生には「世界の漁業事情」、「最近の漁業に関する新聞記事」、「景気の動きと経営戦略の変化」、「消費者の購買力の抑制、変化」等の資料をもとに話をして頂きました。

先生の話では「これからの漁業経営並びに個人経営は、情報を広く収集し、社会性を持ち自分で考えた事を本音で話し行動する。そして自身で経営そのものの先を見極めるということが大切だ。」という内容をエネルギーに歯切れ良く話され、参加者全員が圧倒されっぱなしでした。

その先生の話を聞き、私はこれからの漁業経営を行う上で自分自身の考え方、社会の見方を変え、自身自身をしつかり持つてやって行く必要があると感じました。

また、最近の厳しい漁業環境の中で我々漁業者は漁業経営の改善、そして自分自身の改善をしながら漁業を守っていかねばならないと感じました。

ホタテガイ養殖の体験学習を実施して

青年漁業士 佐々木 克弥
(北上町十三浜漁業協同組合)

私達が地元の小学生に対して実施しているホタテガイ養殖の体験学習を紹介します。

北上町の相川小学校では大自然の恵みを総合学習の中に大きく取り入れており、これは子供達にとつてと

ても大切な事だと思っています。総合学習は四季折々に、全校釣り大会、ワカメ種付け、刈り取り、あるいは畑のソバを収穫しての手打ちそば作りを行っておりま。我々も子供達に生まれ育った所の良さ、自慢出来ることを現場のプロの話を聞かせながら体験学習をさせたいという考え方があり、これが総合学習の内容と一致しました。

ホタテガイ養殖体験は五月のホタテ幼生の採苗に関する勉強会に始まり、八月末に一回目のパールネットへの入れ替え作業となります。



体験学習へ参加した子供達

この時期は暑く、水を使つての作業のため、子供達ははしやぎながらの作業でした。次の作業は年が明けてのネットの入れ替え、この時期は寒いので建物の中で暖かい物を飲んで一服しながらの作業です。二回目の

作業の時、ホタテは十六、十八ミリメートルであつたものが四十五、四十六ミリメートルまで成長し、子供達は驚いていました。



皆熱心に学んでいました

そして三回目の十月はネットの入れ替えや、耳吊り作業です。子供達は半成員を決まった数でネットに入れたり、穴をあけた貝をロープについたピンに刺したりしました。この頃は猫の手も借りたい時期ですが、子供達も一生懸命作業してくれたので大いに助けられました。

年が明けて五月から出荷作業が始まります。ナタで貝を掃除して、サイズを測って万丈かごに入れます。組合職員の立ち合いのもとに、業者が車に積み込みます。採苗袋から取り出したあの小さなホタテがこんなに大きくなった事に子供達は大変驚いていました。海の恵みというもの

をあらためて感じたようです。また、その折々で仕事の内容が違いうことに驚いたようです。

子供達には自分達のまわりの自然から沢山の恵みを受けて生きているという事を感じてもらえれば幸いです。きつと海と山の総合学習の中で自分達は恵まれている事に気づくはずで。このような中で育った子供達が物事に柔軟に対応出来ることと信じます。そしてホタテも大きくなりましたが、子供達も前より一回り大きくなったように感じました。子供達の御陰で自分も良い時間を過ごすことが出来たと思っています。

▼南部支部

南部地区で新たに青年漁業士になられた皆さんを紹介します。

○宮戸漁業協同組合 尾形一彦



現在、私はノリ養殖業を主に行っています。今はいかに健全な種網を確保できるかで生産量という収入

が変わってくるので大変です。今は野外採苗を主力に行っているのですが、気候の変化に左右されて良いものが出来にくいので、これからは陸上採苗の技術を身につけて健全で安心できる種網を確保して努力したいと考えています。入会して間もないので先輩方の意見と指導を受けながら頑張っていきたいと思っています。

○巨理町漁業協同組合 後藤修



私は、小型底曳網漁業を営んでいます。現在地元では高齢化が進み、漁業という仕事に携わる方が少なくなっています。今後進むであろう高齢化問題に備え、課題を設け、多くの人と意見を交わし、

各関係機関の協力と指導を頂き、次世代の漁業に向け、職業として安心して選択できるような形を整える必要があると思っています。

これからの漁業に役立つよう努力して行きたいと思っています。

○浦戸東部漁業協同組合 川畑栄彦



私は、主に力キ養殖業（種ガキの採苗からむき身作業まで）を主体にアサリ漁業等を営んでおります。

今、生産者は漁業利益を求めて一生懸命に生産性の向上に努めています。しかし、生産量を増やすことが収入の増加に繋がるとは限らず、場合によっては、生産を高めても収入は減収することもあります。

生産性の追求だけではなく、収益性を高めていくことがこれからの漁業経営として必要であると思っています。これからも、漁業士として諸先輩

方の指導を受けながら頑張っていきたいと思っています。



新人漁師の紹介

青年漁業士 菊地 幹彦
(巨理町漁業協同組合)

ファッション関係の仕事から一転して漁師になった菊地裕丈さん。青年漁業士の菊池勉さんの所で底びき網漁の相方をしています。

この転職体験談を県の青年・女性漁業者交流大会にて発表し、最優秀賞を受賞しました。このことから、話題性もあり、テレビ・新聞にとりあげられ、いつきに有名人に。一緒に家族や船主の勉さんもインタビューを受けたり、ライトを浴びたりと大忙しでした。何かで御覧になった方も多いでしょう。

「生活に変化はあった？」といえ「何も変わらない」と。自分流をいく彼ならではの。奥様いわく天候、水揚げに左右される不安定な収入のやりくりは大変とのこと。それでも彼が一人前の漁師になる頃には、やりくり上手の主婦になっているかなと話されていました。夕方親子で仲良く散歩する姿はしあわせそのものでした。



乗り組んでいる小型底曳網船の前で家族と

☆旬の話題☆

木村喜久雄指導漁業士ビデオに出演！

宮城県漁業士会事務局

うららかな陽気がただよう平成十三年四月二十七日、「日本の食料生産」をテーマとした小学校五年生用の社会科教材ビデオを撮影するため、日本産業映画センターのカメラマンが鳴瀬町を訪れ、木村喜久雄指導漁業士の協力により、松島湾内の力キ養殖場や力キむきなどの生産作業を撮影しました。



種ガキ原盤投入等も撮影しました

また、ビデオ作成の過程で、木村漁業士に力キ養殖を行う上での喜びや苦労についてや松島湾が力キ養殖に適している理由などについてインタビューされ、木村漁業士は緊張した面もちで答えていました。

このビデオ撮影は、小学校五年生の社会科の中で農業や水産業について具体例を通して調べ、日本における食料生産物の分布や従事している人々の工夫や努力などを学習させるために、文部科学省の依頼を受けた東映教育部からの委託によるものとことです。

今回、木村漁業士が出演した社会科教材ビデオを見た子供たちが宮城県の方キ養殖と生産に携わっている方々について色々な面で感じ、水産業への理解を少しでも深めることができればと思います。

トピックス

宮城県青年・女性漁業者交流大会の開催について

平成十三年八月二十三日、七ヶ浜町の七ヶ浜国際村を会場として第三回宮城県青年・女性漁業者交流大会が開催され、青年・女性グループ合わせて八団体が研究活動や地域振興の取り組み等について発表しました。

審査の結果、平成十四年三月六日、七日の両日に東京都で開催される全国大会には亶理町漁協漁業研究会の菊地裕丈さん（支部だよりでも紹介しています）と志津川町漁協戸倉婦人部の三浦さき子さんが推薦されることとなりました。両名の御活躍に期待いたします。



交流大会表彰式

発表題名	グループ名	発表者名
サラリーマンから漁師に ～漁業に足を踏み入れて～	亶理町漁協漁業研究会	菊地 裕丈
食べよう！食べさせよう！石巻の魚介類	石巻地区漁協婦人部	江刺みゆき
地元に適したホタテガイ養殖方法の検討	雄勝町東部漁協青年部	中村 司
婦人部の手で～環境・結いの伝統・食文化等を次の世代へ～	志津川町漁協戸倉婦人部	三浦さき子
マコガレイ種苗生産への取り組み	志津川町漁協青年部	工藤 忠清
「海鞘」の消費拡大について	前網漁協婦人部	渡辺マサコ
藻場造成の新たな試み ～地域あった海中造林を目指して～	七ヶ浜町漁協青年部	鈴木 直也
地場産品の有効利用「オオガイの料理開発と普及について」	宮戸西部漁協婦人部	八木 恵子

（発表順・敬称略）

▼発表題名及びグループ紹介

漁業士会からのお知らせ

海人では、皆様からの原稿を随時募集しています。漁業士会に対する色々な意見や自分の仕事の紹介、地域活動のPRなど、内容は自由で、四〇〇字詰め原稿用紙一枚から二枚にまとめて、漁業士会事務局まで送付してください。

なお、写真については一枚に限り掲載できますので、原稿と一緒に送付してください。写真は後日返却します。

たくさんの方の寄稿をお願いします。

海人編集委員
編集委員長 木村喜久雄
北部委員 阿部長喜
中部委員 佐々木克弥
南部委員 菊地幹彦



☆いつも元気な鈴木会長☆